

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：10103
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2020～2022
課題番号：20K12314
研究課題名(和文) 習近平体制におけるキリスト教とイスラームの宗教中国化に関するポリティクスの研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on the Politics of Sinicization of Christianity and Islam under the Xi Jinping Regime

研究代表者
松本 ますみ (MATSUMOTO, Masumi)

室蘭工業大学・大学院工学研究科・教授

研究者番号：30308564
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：宗教中国化、特にキリスト教とイスラームの研究を行った。以下、明らかになった。第一に、2015年の宗教中国化の方針が明らかになるとともに、宗教教義への介入と、非中国的とみなされた教会やモスクの改造が進んだことである。改革開放後の宗教復興とは一線を画す。これは、「初心忘るべからず」という社会主義路線の堅持と、「中華民族の大復興」という大国ナショナリズムの発揚が根底にある。第二に、世界第二の経済大国となった中国は、一帯一路によりイスラーム諸国との経済・安全保障体制を堅実なものとし、結果、海外のイスラーム勢力の干渉を遮断することに成功した。それにより宗教という不安定要因を除去することに一応成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

習近平政権下で起こっている宗教中国化という名の世俗化政策は宗教教義への介入や宗教教育の制限をももたらしている。本研究はこのことを中国史全体やグローバリゼーション下での中国の政治的・経済的地位向上の文脈の中でとらえなおした。すなわち、宗教への介入は、中国の歴史上繰り返されていることであり、その性格上普遍化を目指す世界宗教は、中国社会に存在する以上、中国社会や政治の中でいつも改変を余儀なくされている、ということである。現在の中国政府は自由、民主、人権、法治といった西欧式の普遍的価値観に対する警戒感を怠らず、その文脈で宗教に対する統制を強化している。

研究成果の概要(英文)：We Studied Sinicization of Religion, particularly Christianity and Islam. We clarified the following points. First, the policy of Sinicization of Religion since in 2015 included the official intervention in religious doctrines and the remodeling and destruction of churches and mosques. This is far different from the religious revival after the initiation of the reform and open policy. This phenomena is based on Xi's adherence to the socialist principle of atheism, using the slogan of "remembering the original intention" and the stress of great power nationalism, using the slogan of "the great revival of the Chinese nation". Second, China, which has become the world's second largest economy, has established a solid economic and security relationship with Islamic countries through the "Belt and Road" initiative. As a result, China has succeeded in blocking the interference of Islamic powers abroad. As a result, it has succeeded in eliminating the unstable factors of religions.

研究分野：中国近現代史

キーワード：宗教 宗教中国化 イスラーム キリスト教 宗教統制 グローバリゼーション 権威主義国家体制

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は、中国の習近平主席の任期第二期にあたり、2015年以降の「宗教中国化」が実行に移され、その内容が明らかになりつつあった時期であった。例えば、すでに地下化していた非公認教会の摘発、宗教学校の廃止、ハラールレストランでのアラビア語表示の削除、教会やモスクへの監視カメラの導入、愛国主義の強調、教会やモスクの「改造」などの宗教組織、宗教文化や宗教教義への介入が顕著にみられた時期であった。すなわち、習近平第一期目や、それ以前の胡錦濤、江沢民、鄧小平の宗教自由化路線とは明らかに違う現象がみられはじめた。「宗教」という言葉すらもが2016年以降にタブー化されていた。研究代表者と研究分担者は、それぞれ中国での宗教関係のフィールドワークを長年行っていたものであったから、この転換には驚かされた。その政策転換の意味とは何かを探ろうと考えたのが背景にある。

2. 研究の目的

習近平体制における宗教政策の大転換の背景と、その目的さらにはその背景について考察をすることが目的であった。

3. 研究の方法

歴史研究の分野では、宗教中国化に匹敵することが、中華人民共和国時代のみならず、中華民国期やそれ以前の王朝期に行われていたことを公式文書や雑誌記事に基づき論証した。また、Covid-19のロックダウンと宗教統制の二重の問題により、現地に行って調査をすることは不可能となり、文化人類学的調査や社会調査はあきらめざるを得なかった。その代わりに、インターネット等で現れる公式非公式の言説研究や、中国版SNSで現れる宗教や信仰者に対するヘイトスピーチ、さらにはそれに対する反論などを追って、差別が正当化される社会環境の状況を分析した。また、海外に逃れた宗教者たちにオンラインでインタビューして、いま中国の信仰者がおかれている状況を調査した。

4. 研究成果

(1) 歴史的観点からいえば、外来世界宗教に対する締め付けは、中国の歴代の歴史においても連続して存在してきた。しかし、政府や権力者による統制や多数派からの差別にも拘わらず、それを跳ね返し、サバイバルする力も信仰者たちは持っていた。例えば、イスラームに関しては、19世紀雲南の「回民蜂起」で無辜のムスリムが大量虐殺されたことに関して、20世紀民国時代の実力者たちが慰霊碑を作ったり、名誉回復を果たそうとしたり、差別防止のための国民代表を送り出す運動を行ったりした。このような弾圧を跳ね返そうとする力をムスリムは持っていたことを、特に民国時代のムスリム向き雑誌を使って論証した。

(2) 信仰をもつ女性たちが男性支配、階層差別、エスニシティ差別からいかに安心な空間をつくり、自信を取り戻し、エンパワーしようとしたのかについて、民国時代のムスリム向き雑誌からあぶりだして論証した。さらには、現代中国における目に見えぬ宗教差別や民族差別を、ヘジャブをかぶることによって止揚させようという動きも見出した。さらには、厳しい統制の下にあっても、面従腹背をしつつ、宗教復興を海外でも行おうとする勢力を追った。

(3) 習近平の「宗教中国化」の動きは、原点回帰の社会主義原則の堅持とナショナリズムに裏打ちされている。これは、国内の権力維持のためのみならず、国際社会における中国の大国としての地位向上と関連していることを論証した。無神論を原則とする社会主義政権であるがゆえに、「信仰の自由」は人民民主専政の名のもとで、制限を余儀なくされる。すなわち、改革開放期に例外的な宗教への寛容さがあったということになる。しかし、その時代はすでに終わった。すでに世界第二位のGDPを誇る経済大国、14億の人口を擁する大国となった中国は、特に米国をはじめとした自由主義陣営との対決色を強めている。その勢力拡張の過程の中で、発展途上国を「一帯一路」構想の中で自分たちの陣営に取り入れることになった。それらの多くが発展途上国で、中国式権威主義的統治方式にある程度の憧憬と親和性をもつ国家体制を擁する。そのような国家ではよしんば宗教が大きな力をもっていたとしても、チャイナマネーに抗することができないような経済的状況に陥っている場合が多い。それゆえ、中国の宗教統制は内政問題として処理され、外交の場でも語られることがなくなっている。

(4) 草の根の動きとして、中国国内の信仰者が、海外布教をしようと試みたこともあったが、以上のような状況に鑑み、難しくなっている。すなわち、現在は、チャイナマネーと国内の統制の中であって、宗教者は逼塞を余儀なくされている。

(5) 宗教教義への介入は、スローガンにまで現れ、かつての「愛国愛教」は、「愛党愛国」にすり替わった。これは、信仰の根柢である唯一神の絶対性をも揺るがすような出来事である。このスローガンは、いわゆる「集中營」(中国側のいう「再教育センター」)がつくられはじめた新疆ウイグル自治区で2016年、2017年ごろから現れ、全中国に拡大した。少なくとも中国の主権範囲内で最高の権力を持つものは中国共産党で、それは道徳と規範を規定するという宣言にもみえる。さまざまなメディアでいわれる「文革2.0」と言われるゆえんである。しかしながら、長年の社会主義体制の中で無神論者が過半数を占める中国では、信仰をもつものへの偏見が強く、教育現場でも、インターネット等でも宗教は「落後」の象徴の一つとして批判の対象となっている。それがゆえ、中国社会全体からいえば、「宗教中国化」の問題点は看過されている。

(6) 「信仰の自由」という自由主義陣営では当たり前とされる価値観を反転させ、国家による介入をやすやすと果たしたことが「宗教中国化」の真骨頂であり、それはそのままいわゆる欧米流の普遍的価値観(自由、人権、民主、法治)へのアンチテーゼとなっている。そして、それは、コロナ後の厳しい入国制限や、インターネット遮断、インターネット検閲といった最新デジタル技術で具体的なものとされている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 MATSUMOTO, Masumi	4. 巻 79
2. 論文標題 The "Historical Recognition Problem" and Hui-Muslim Elites in the Restoration of the Honor of the "Yunnan Muslim Uprising"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Memoirs of the Research Department of the TOYO BUNKO	6. 最初と最後の頁 67-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐藤千歳	4. 巻 3585
2. 論文標題 中国の教会が届ける「ケアとキュア」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キリスト新聞	6. 最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 村上 志保	4. 巻 54
2. 論文標題 宗教中国化とキリスト教の「洋」 - 中国プロテスタント教会に見られる変化 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治学院大学キリスト教研究所紀要	6. 最初と最後の頁 185 ~ 211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松本 ますみ	4. 巻 10
2. 論文標題 「宗教中国化」、「宗教リスク論」の中で変容する回族コミュニティー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究中国	6. 最初と最後の頁 45 - 54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 ますみ	4. 巻 996
2. 論文標題 書評 新保敦子『日本占領下の中国ムスリム』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 43-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 ますみ	4. 巻 12
2. 論文標題 近代中国のイスラーム的男女平等言説をめぐる議論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジェンダー研究21	6. 最初と最後の頁 17 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐藤千歳
2. 発表標題 現代中国の宗教活動と宗教政策
3. 学会等名 中国研究所 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本ますみ
2. 発表標題 新しい人間・空間・価値の創造? : 習近平時代の宗教・民族政策変更の衝撃と意味
3. 学会等名 日本平和学会 東北・北海道支部研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本ますみ
2. 発表標題 中国の回族女性のヘジャブと宗教中国化
3. 学会等名 早稲田大学ジェンダー研究所（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤千歳
2. 発表標題 宗教統制の強化に直面したプロテスタント信者の生存戦略 中国浙江省の事例から
3. 学会等名 宗教と社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上志保
2. 発表標題 習近平政権下における「宗教中国化」と「中国」 - 中国プロテスタントにおける「中国化」の意味 -
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上志保
2. 発表標題 中華人民共和国成立後のプロテスタントにおける中国社会・文化との接合と政治 - 「三自」から「中国化」まで -
3. 学会等名 ICUアジア文化研究所主催ワークショップ「中国周辺地域の 社会統合と文化摩擦」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本ますみ
2. 発表標題 中国のムスリマとヘジャブの意味
3. 学会等名 イスラーム・ジェンダー科研「記憶と記録にみる女性たちと100年」研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本 ますみ
2. 発表標題 唯物論の神はイスラームグッズに祝福を与え給う 世界の工場、中国の経験を垣間見る
3. 学会等名 「グローバル関係学」（新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて 関係性中心の融合型人文社会科学の確立」）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 MATSUMOTO, Masumi
2. 発表標題 Occupation and Solidarity: The recognition of the Middle Eastern Situation in the Muslim Magazine Huijiao Zhoubao (Islam Weekly) published in the Japanese Occupied Territory
3. 学会等名 The Politicization of Islam in East Asia 1850-1950 International Symposium, University of Zurich (招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Goto, E, Kagawa E, Mori R, Obiya C, Nakata Y, Liu L, Sugiura, M, Ogata M, Sato W, Matsumoto M.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ILCAA	5. 総ページ数 215
3. 書名 Created and Contested-- Norms, Traditions, and Values in Contemporary Asian Fashion--	

1. 著者名 中国研究所編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 520
3. 書名 中国年鑑2021 コロナ禍と米中覇権争い	

1. 著者名 長谷部圭彦、秋葉淳、山崎和美、マルコ・ソッティエレ、久志本裕子、服部美奈、内田直義、見原礼子、鳥山純子、中島悠介、大坪玲子、日下部達哉、鴨川明子、小林寧子、中田有紀、河野明日香、松本ますみ、原智佐	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 258
3. 書名 イスラーム・ジェンダー・スタディーズ 3 教育とエンパワーメント	

1. 著者名 櫻井義秀編著、楊鳳崗、川田進、佐藤千歳など著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 344
3. 書名 中国台湾香港の現代宗教	

1. 著者名 一般社団法人中国研究所編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 520
3. 書名 中国年鑑2020 中国建国70年の光と陰	

1. 著者名 長沢 栄治、岡 真理、後藤 絵美、鷹木啓子、松尾有里子、服部美奈、山崎和美、藤元優子、鈴木珠里、松永典子、山口みどり、千代崎未央、野中葉、酒井啓子、新郷啓子、中島由香利、帯谷知可、高橋圭、松本ますみ、須永恵美子、見原礼子、木原悠、岡井宏文	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 記憶と記録にみる女性たちと百年	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 千歳 (SATO H Chitose) (80708743)	北海商科大学・商学部・教授 (30112)	
研究分担者	村上 志保 (MURAKAMI Shiho) (90526790)	明治学院大学・キリスト教研究所・研究員 (32683)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------